

48 時間で塗り替わったエージェント市場の支配構造

Google・OpenAI・Microsoft 同時発表が示す「AI が働く時代」の競争構造と知財実務への示唆

2026 年 4 月 27 日

Claude Opus 4.7

1. 結論——「48 時間」が意味したもの

2026 年 4 月 22 日前後の 48 時間に、OpenAI の「Workspace Agents」、Google の Gemini Enterprise Agent Platform (Google Cloud Next '26)、そして Microsoft の Copilot Cowork/Agent 365 が事実上同日に展開された^{1,2,3}。これは生成 AI が「答えを返すツール」から「業務を自律遂行するコワーカー」へと役割を転換した分水嶺であり、対談動画が「AI が働く時代」の「覇権争いの開始」と表現したのはこの 48 時間を指すと判断される。

重要なのは、この同時発表が単なるモデル性能競争ではなく、エンタープライズの業務基盤・ID 基盤・モデル選択権・データ境界の支配権を巡る三つ巴の構造戦争である点にある。日本の知財コンサルタントにとっては、(1) AI エージェントが業務に入り込むことで顕在化する著作権・営業秘密・規約違反の責任主体論点、(2) 国内特化 AI と海外汎用エージェントの住み分け再設計、(3) AI 事業者ガイドライン v1.2 (2026 年 3 月 31 日改訂) への適合の三点を、向こう 12 か月の重点課題として位置づけるべきである⁴。

なお、対象動画 ID「sHFpp9JWtBw」については外部検索に十分にインデックスされておらず、登壇者・チャンネル・公開日のメタデータは確認できなかった。ただしタイトル文言（「AI が働く時代」「48 時間」「同時発表」「覇権争いを開始」）と直近のニュースサイクルの整合性から、対象は 2026 年 4 月 20–25 日の三社発表でほぼ確実である。候補として 2025 年 11 月の「Crazy Week」（Gemini 3 Pro/GPT-5.1/Microsoft Ignite 2025）も検討したが^{5,6}、OpenAI の GPT-5.1 発表から Google・Microsoft 発表までの間隔が 6 日離れており「48 時間」の枠に収まらない。

2. 48 時間で同時に起きたこと

時系列を一次情報ベースで追うと、2026 年 4 月 21 日（月）に Microsoft が公式ブログ「Accelerating Frontier Transformation with Microsoft partners」を公開し、Microsoft 365 E7（Frontier Worker Suite、月額 99 ドル/user）と Agent 365（月額 15 ドル/user）の 5 月 1 日 GA を再強調した³。翌 4 月 22 日（水）、OpenAI は「Introducing workspace agents in ChatGPT」を発表し、ChatGPT Business/Enterprise/Edu/Teachers 向けに Codex 基盤の常駐型エージェントを Research Preview として投入した^{1,7}。Slack、Salesforce、Notion、Google Drive、Microsoft 365、Atlassian Rovo など 60 超のエンタープライズアプリと連携し、5 月 6 日まで無料で以後クレジット課金へ移行する設計となっている^{8,9}。

同じ 4 月 22 日、Google は Cloud Next '26（ラスベガス）で「Gemini Enterprise Agent Platform」を発表し、Vertex AI の後継として Agent Runtime、Memory Bank、Agent Registry、Agent Designer（ノーコード）、Agent Studio（ローコード）、Skills、Inbox、Projects、Canvas、Agentic Data Cloud、Agentic Defense（Wiz 統合）、第 8 世代 TPU、Claude Opus 4.7 の Model Garden 提供等を一挙に披露した^{2,10,11}。

時間軸を広げると、Microsoft Copilot Cowork は 2026 年 3 月 9 日に研究プレビューとして発表され、3 月 30 日に Frontier プログラム経由で展開、4 月 9 日に対象を拡大したのち 4 月 22 日に同社 AI Tour 香港で Judson Althoff 商業部門 CEO が Frontier Success Framework として再強調した^{12,13}。Copilot Cowork は Microsoft が Anthropic Claude（Claude Cowork 技術）を Microsoft クラウド内で「サブプロセッサ」としてラップし、Outlook/Excel/Teams/SharePoint/Calendar/Word を横断する長時間マルチステップ自律実行エージェントとして提供する仕組みである^{14,15}。これは OpenAI 排他関係の事実上の終焉を意味し、Microsoft は 2025 年 11 月 18 日の Ignite で既に Anthropic に最大 50 億ドル、NVIDIA が 100 億ドル出資、Anthropic が 300 億ドルの Azure コンピュート購入を確約する三社提携を発表していた^{16,17}。

OpenAI 側の 48 時間も重層的である。Workspace Agents は 2025 年 10 月の AgentKit、2026 年 2 月 5 日の OpenAI Frontier（エンタープライズ向けエージェント管理プラットフォーム、

SOC 2 Type II・ISO/IEC 27001/27017/27018/27701・CSA STAR 準拠)に続く第三層であり、custom GPTs の正式な後継と位置付けられる^{18,19}。同週には GPT-5.5、ChatGPT Images 2、Codex Chronicle も矢継ぎ早にローンチされた²。

3. 三社の戦略は同じゴールに別ルートで向かう

三社はいずれも「エンタープライズの業務遂行基盤」を狙うが、その戦略 DNA は決定的に異なる。Microsoft はマルチモデル・プラットフォーム集約戦略である。M365 の 4.5 億商用ユーザーという流通網を最大の武器に、モデル層では OpenAI と Anthropic を並列調達し、Work IQ (社内コンテキスト統合) / Foundry IQ (次世代 RAG) / Fabric IQ (データ) の三層で差別化する¹⁵。CMO の Jared Spataro は「60 日ごとに新しい王者が生まれる、ベンダー切替なしのプラットフォームが求められている」と発言し、Microsoft が「モデルを選ばず、流通網と統制プレーンを握る」立ち位置を明示した¹⁵。99 ドル/user/月の E7 Frontier Suite と、15 ドル/user/月の Agent 365 (エージェント版「ID 基盤」、Microsoft Entra Agent ID で個別エージェントに ID 付与) は、SaaS 市場が「per-seat」モデルから「per-agent」モデルへ移行する象徴である³。

Google は対照的に垂直統合戦略を採る。モデル (Gemini 3.1 Pro / Nano Banana 2 / Lyria 3 / Gemma 4)、IDE (Antigravity、2025 年 11 月 18 日提供開始)、コンシューマー基盤 (Personal Intelligence、2026 年 4 月 14 日にグローバル展開)、自社シリコン (第 8 世代 TPU)、データクラウド (Apache Iceberg 準拠 Cross-Cloud Lakehouse) まで全層を自社で保有する^{10,20,21}。2026 年 1 月の Apple-Google 提携は決定的な追い風で、推計年 10 億ドル~最大 50 億ドルで Apple Foundation Models の基盤に 1.2T parameter MoE のカスタム Gemini が採用され、iOS 26.4 で Gemini-powered Siri が提供される^{22,23}。これにより 23 億台の Apple 端末が Google 側に流れる構造が確定した。

OpenAI はスタック積み上げ戦略である。AgentKit (2025 年 10 月、開発者向け) → Frontier (2026 年 2 月、エンタープライズ管理基盤) → Workspace Agents (2026 年 4 月、ノーコード業務エージェント) の三層を半年で構築し、Codex がコーディング・コンピュータユース・ワークスペース基盤を兼ねる「OS 化」を進めた。OpenAI Codex の週次ユーザーは 200 万超に達し、

Anthropic Claude Code に対する追い上げが顕著となった²⁴。一方で 2025 年 12 月に Sam Altman CEO が社内に「コードレッド」を宣言し^{25,26}、ChatGPT の競争力立て直しのために広告事業や個人アシスタント「Pulse」等を一旦凍結した。OpenAI の評価額は 2026 年 3 月 31 日の調達ラウンドで 8,520 億ドルに達したが²⁷、Microsoft 排他関係の終了とインフラ調達の独立性課題は依然として残る。

4. エージェントを動かす技術は MCP/A2A で標準化に向かう

技術アーキテクチャの収斂と差異を整理しておく。Model Context Protocol (MCP) は Anthropic が 2024 年 11 月に提唱した「エージェント⇄ツール」のプロトコルで、2025 年 3 月 OpenAI 採用、4 月 Google 採用、その後 Microsoft/AWS/Cloudflare が追従し、2025 年 12 月に Anthropic/OpenAI/Block が Linux Foundation の Agentic AI Foundation (AAIF) に共同寄贈するに至った^{28,29}。月間 SDK ダウンロードは 9,700 万超、MCP サーバー 5,800 超、Salesforce/ServiceNow/Workday/SAP も対応済みで事実上のデファクトとなった^{30,31}。Google が推進する A2A (Agent2Agent) は「エージェント⇄エージェント」の通信規格で、2026 年 4 月時点で 150 組織超が参加、v1.0 で Signed Agent Cards と AP2 (agent-driven commerce) を追加した^{32,33}。MCP と A2A は競合ではなく補完関係にある。

コンピュータユース (PC・ブラウザ操作型エージェント) は OSWorld-Verified ベンチマークが共通指標となり、Anthropic Claude Computer Use、OpenAI Operator (87%のブラウザタスク成功率)、Codex Background Computer Use、Google Project Mariner/Gemini Computer Use (10 並列、DOM-aware)、Microsoft Copilot Cowork (M365 内タスク特化) が並立する^{34,35}。長時間自律稼働では Anthropic Claude Opus 4.6 が 14.5 時間連続自律タスク完遂を実証し、Google Gemini Enterprise Inbox は「最大数日連続稼働する long-running agents」を統合管理する設計となった^{10,11}。

5. 知財・法務リスクは「学習」から「実行」に重心移動した

ここからが本論である。AI エージェントが業務遂行段階で第三者著作物を取得・利用する時

代に入ったことで、知財・法務リスクの重心は学習データ（input）側から実行・出力（execution/output）側へ明確に移動した。

5.1 学習データ側の論点

学習データ側では、米国訴訟は依然として進行中である。Authors Guild v. OpenAI/ NYT v. OpenAI (S.D.N.Y. 1:25-md-03143) で Sidney Stein 判事は 2025 年 4 月に直接侵害・寄与侵害請求を維持し³⁶、5 月 13 日に Wang Magistrate 判事が 4 億ユーザー分の ChatGPT ログ全保全命令を発出、Stein 判事が 6 月 26 日に是認した³⁷。フェアユース本案判断は 2026 年夏以降と見込まれる³⁸。

Bartz v. Anthropic (N.D. Cal. 3:24-cv-05417、Alsup 判事 2025 年 6 月 23 日) では学習目的利用は「圧倒的に変容的」でフェアユース該当としつつ、シャドウライブラリ由来のデータ取得は侵害と判示し、2025 年 9 月に Anthropic が米国史上最大の著作権和解 15 億ドルで合意した（最終承認公聴会 2026 年 5 月 14 日）^{39,40,41}。日本企業がエージェントを業務利用する際は、提供事業者の学習データ取得経路の合法性（lawful sourcing）を契約上で表明保証させる実務が必要となる。

5.2 実行・出力側の論点（カラオケ法理の延長）

実行・出力側のリスクはより複雑である。エージェントがブラウザを操作してニュースサイトや専門 DB から情報を取得・要約・転載する局面では、カラオケ法理・まねき TV 最判の延長で利用者企業が複製・公衆送信主体と評価される蓋然性が高い。文化庁「AI と著作権に関する考え方について」（2024 年 3 月 15 日、パブコメ 24,938 件反映）も、AI 利用者が侵害主体になりうる前提で整理されている^{42,43}。著作権法第 30 条の 4 の射程について、エージェントが RAG 的に実行時に都度取得し参照のみする場合は享受目的併存と評価され、30 条の 4 の射程外と整理する見解が有力である（ただしこの解釈は実務・学説で固まっておらず、推測を含む）。

5.3 ブラウザ操作型エージェントと利用規約違反リスク

ブラウザ操作型エージェントは利用規約違反訴訟リスクも増大させた。Reddit v. Anthropic

(San Francisco Sup. Ct. CGC-25-625892、2025 年 6 月提訴) は注目すべき先例である。ClaudeBot が 2024 年 7 月の停止宣言後も 10 万回超アクセスしたとして、Reddit は契約違反・不当利得・使役不法行為 (trespass to chattels) ・不正競争を主張し、著作権法プリエンプション (連邦法優越) を回避した^{44,45}。News Corp (WSJ・NY Post) 対 Perplexity、NYT 対 Perplexity、日本経済新聞・朝日新聞対 Perplexity (2025 年 8 月日本提訴) も並走中である⁴⁶。訴訟戦略は「著作権侵害」から「契約違反・不当利得・trespass to chattels」へシフトしており、エージェント運営者が Cloudflare 等と bot 正体偽装を巡り対立する事実関係も浮上している。Google Project Mariner は「user-triggered fetcher」として robots.txt を無視する設計だが⁴⁷、企業利用者は形式的にユーザー名義のアクセスでも、規約違反責任は指示した法人に帰属しうる (履行補助者類似)。

5.4 営業秘密の秘密管理性

営業秘密漏洩リスクは、不競法 2 条 6 項の秘密管理性要件で問題となる。経産省は 2025 年 3 月に「営業秘密管理指針」を改訂し、設計図等を生成 AI に入力しても秘密管理が継続していれば一事をもって秘密管理性は否定されないと整理した。とはいえ実務上は、ChatGPT 個人版 (Free/Plus/Pro、デフォルト学習利用あり) への入力は秘密管理性否定リスクが高く、ChatGPT Enterprise / Microsoft 365 Copilot / Google Workspace AI / Anthropic Claude Enterprise のテナント境界保護下のサービスに限定すべきである。OpenAI Enterprise / Azure OpenAI 規約には「データ処理目的・監視目的での人的アクセス限定」の記載はあっても、提供者の秘密保持義務を明示する条項は明確でないため、安全側では DPA (データ処理契約) と秘密保持義務付契約のホワイトリスト運用が推奨される。

5.5 発明者性 (AI inventorship) の確定

発明者性の論点は、2025 年が画期となった。日本 IP 高裁は令和 7 年 (2025 年) 1 月 30 日 (令和 6 年 (行ケ) 10006 号) で DABUS 事件について発明者は自然人に限ると判断し、Thaler 氏の事実上の所有主張を退けた⁴⁸。USPTO は 2025 年 11 月 26 日に Squires 長官が従前の 2024 年 2 月 13 日「AI-Assisted Inventions」発明者性ガイダンスを全面撤回し、「AI は発明者になれ

ない、AI は実験器具・ソフト・データベースと同じ単なるツール」とする新ガイダンスを公布した^{49,50}。

実務的含意は、AI エージェントを発明創作プロセスに組み込む企業は、自然人発明者の significant contribution（特に conception＝着想）を文書化する運用を徹底する必要があるというところである。AI エージェントが特許明細書ドラフト・先行技術調査・クレーム作成を行う場合の弁理士法第 75 条との関係は、AI 事業者が外部企業向けに業として行う形態では非弁類似行為のリスクがあり、立法・ガイドライン整備が待たれる（推測を含む）⁵¹。

6. 日本の知財実務はハイブリッド運用が事実上の標準解になる

国内特化 AI の観点では、特許検索固有の業務領域では海外汎用エージェントは依然として実用域に達していないことが重要である。リーガルテック社の MyTokkyo.AI による検証では、Microsoft Copilot と Google Gemini は「リチウムイオン電池の冷却技術」検索で牛の削蹄機やホワイトボード消去具など全く無関係な特許番号を提示し、ChatTokkyo は関連技術を正確に抽出した^{52,53}。J-Stage 掲載の特許調査 AI 比較論文も、ChatGPT-4o/Gemini は事前プロンプト工夫で精度向上余地があるが現状では特化 AI に優位を譲るとする⁵⁴。

国内特化 AI 市場は急成長フェーズに入った。Patentfield AIR は 2024 年 7 月開始、月額 3 万円～（Corp プラン ID 追加）、GPT-4o/GPT-5-nano/Gemini/Claude をモデル選択可能で 2025 年 10 月から「AI サマリー グローバル」対応となった。島津製作所と IP Agent の合併による「Genzo AI」は 2026 年 4 月 1 日新会社設立、4 月 15 日提供開始で、翻訳／中間処理／先行調査／FTO／契約レビュー／明細書（7 月追加）／無効調査（7 月追加）を SaaS 年間契約・ライセンス料人数無制限均一で提供し、2030 年売上 15 億円を目標とする^{55,56}。Tokkyo.Ai/MyTokkyo.Ai（リーガルテック株式会社）は 2025 年 6 月 16 日に「日本初 AI エージェント搭載」SaaS を謳い、同年 12 月 18 日に「ディープエージェント方式」を追加した⁵⁷。Patsnap Eureka はドメイン特化 LLM「PatentDNA」と 35 億件データで化学・素材分野に強く、価格帯は 50 万～100 万円超とされる。

知財実務家への実務的示唆として、3層モデルでのハイブリッド運用が現実解である。第1層（公開情報・概観把握・翻訳・要約）は汎用AI（ChatGPT Enterprise／Microsoft 365 Copilot／Gemini Deep Research）、第2層（出願母集団形成・ランドスケープ・先行技術調査）は国内特化AI（Patentfield AIR／Patsnap Eureka／Genzo AI／AI Samurai／Tokkyo.Ai）、第3層（最終判断・出願書類・鑑定）は弁理士（人）。未公開発明・営業秘密は外部生成AI絶対禁止として、社内RAG構築または特化AI API プライベート環境のみに限定する。

日本弁理士会は2025年4月に「弁理士業務AI利活用ガイドライン」と「AI等を用いた業務支援サービスの提供と弁理士法第75条との関係について」を同時公表し、AI出力の正確性確認義務、守秘義務（弁理士法30条）、新規性喪失リスク、商用利用可否、ハルシネーション対策を明文化した^{58,59}。商標類否判断や侵害判断を含むAIサービスは「鑑定」として75条違反となるリスクがあり、特許事務所がAIを業務効率化ツールとして利用するのは推奨される一方、AIサービスを単独で顧客へ販売する事業者は要注意である。委任契約・顧問契約には「AI利用条項」（利用するAIサービス種別・提供者、入力情報範囲とマスキング方針、出力確認プロセス、学習除外設定確保、著作権・特許権帰属、クライアント事前同意取得）の追加が望まれる。

7. AI事業者ガイドライン v1.2 と企業ガバナンスの新たな要請

総務省・経済産業省は2026年3月31日にAI事業者ガイドラインの第1.2版をとりまとめ公表した^{4,60}。第1.1版（2025年3月）からの最大の変更は、AIエージェントとフィジカルAIの定義・リスク・対策が初めて本格的に追記された点である。RAG利用時のプライバシー問題、「攻めのガバナンス」（リスクをゼロにせず、リスクの大きさ・確率に応じた優先順位付け）、別添7チェックリスト・ワークシート更新を含む。AI利用者の責務として、AI提供者の意図した範囲内での適正利用、出力の精度・リスクの理解、公平性が担保されたデータ入力、トレーサビリティ（データの出所・操作ログ・データの流れの記録・管理）、高度AIシステム取扱い時の広島AIプロセス国際行動規範遵守が掲げられている。法的拘束力はないソフトローだが、取引先・投資家からのAIガバナンス監査要求の基盤として機能する見込みだ。

JIPA（日本知的財産協会）は2025年12月17日に日弁連と意見交換を実施し、「AIユースケ

ース発明における権利行使の実態調査」「AI の利用（企業・法律事務所）」「AI 生成物と不競争法」を協議した⁶¹。内閣府「AI時代の知的財産権検討会」は2024年5月の中間とりまとめでAI発明者性論点の検討継続を明示し、2025年12月26日には「生成AIの適切な利活用等に向けた知的財産の保護及び透明性に関するプリンシプル・コード（仮称）（案）」のパブコメを開始した⁶²。

「AI エージェントが従業員のように働く」場合の使用者責任・契約責任は学説・実務とも未確立だが、論点を整理すると次のとおりである。①使用者責任（民法715条）はエージェントが「被用者」でないため直接適用なし、ただし運営事業者・利用企業の役割分担に応じた類推適用論議論の余地あり。②履行補助者責任は適用が現実的——利用企業が顧客への債務履行手段としてエージェントを用いる場合、利用企業が結果責任を負う。③契約責任——エージェント遂行中の第三者契約違反（対象サイト ToS 違反等）は利用企業に帰属。④不法行為責任——過失判断は予見可能性・結果回避可能性が争点で、AI 事業者ガイドライン v1.2 の遵守状況が過失判断の参考になる可能性が高い。⑤製造物責任——ソフトウェアである AI エージェントは「動産」要件で原則 PL 法不適用。⑥代理権——エージェントが法的拘束力ある契約締結を行う場合の表見代理（民法109/110条）適用関係は未確立。

8. 三社競争が知財コンサル実務にもたらす12か月の変化

48時間の同時発表は、表面的にはエンタープライズエージェントの製品ラインナップ拡大に見える。しかし三社の競争構造を解きほぐすと、これは「企業の業務基盤を誰が握るか」「エージェント識別情報（Entra Agent ID/Agent Identity Registry等）の標準を誰が決めるか」「モデル選択権を企業に持たせるか単一ベンダー依存にするか」という、向こう5年のエンタープライズソフトウェア構造を決める戦争であることが浮かび上がる。Gartner は2025年10月に「Agentic AI 供給が需要を超過し、短期的に整理統合が起きる」と公式予告しており⁶³、2026-2027年は差別化されない第二・第三層プレイヤーの淘汰局面となる蓋然性が高い。

日本の雇用構造への影響も顕在化し始めた。みずほFGは2026年2月の報道で、全国約1.5万人の事務職員を今後10年で最大5,000人分削減（解雇でなく配置転換）し、2026年4月「事

務グループ」を「プロセスデザイングループ」に改称、AI 開発に最大 1,000 億円投資する方針を打ち出した。SBI ホールディングスの北尾吉孝会長は 2026 年 3 月の FIN/SUM で「今度の採用から大幅に減らすことを絶対命令とする」「融資・資産運用を完全に AI エージェント化」と発言した。これらは知財業務にも波及し、大企業の知財部も AI 活用で業務効率 30%向上を目指す動きが鮮明で、特許事務所の付加価値は「AI 出力の品質保証+戦略コンサル」へシフトする。

知財戦略コンサルとして優先実施すべきは次の 5 点に集約される。第一に、学習データ調達経路の表明保証条項を業務利用契約に挿入し、Bartz 和解後の lawful sourcing 義務を実務化する。第二に、営業秘密入力可サービスのホワイトリスト化を社内規程化し、テナント境界保護+DPA 締結+規約上守秘義務明記の三条件を必須とする。第三に、ブラウザ操作型エージェントの対象サイト規約遵守を運営事業者契約で明示させ、Reddit 型の契約違反・不当利得訴訟ルートに警戒する。第四に、自然人発明者の significant contribution 文書化運用を整備し、USPTO 2025 年 11 月新ガイダンスと日本 IP 高裁判決を踏まえた発明者特定プロセスを設計する。第五に、AI 事業者ガイドライン v1.2 のチェックリスト（別添 7）を社内自己評価ベースに採用し、エージェント利用に特化したリスク評価マトリクスを整備した上で、NYT v. OpenAI の保全命令を踏まえたエージェント実行ログの eDiscovery 対応を初期段階から組み込む。

9. 結論

48 時間で塗り替わったのは、AI モデルの性能ランキングではない。塗り替わったのは「AI が業務をどこで、誰の ID 下で、誰のデータ境界の中で、どのモデル選択権で実行するか」という支配権の所在である。Microsoft はマルチモデル化と流通網で、Google は垂直統合と Apple 経由のディストリビューションで、OpenAI はスタック積み上げと自社ブランドで、それぞれ別ルートから同じ「業務基盤の支配権」を奪いに来た。

知財コンサルタントが認識すべき本質的变化は二つある。第一に、法的責任の重心が「AI モデル提供者」から「AI 利用企業」へ移った。エージェントが業務を実行する以上、複製・公衆送信・契約違反・不当利得の主体は利用企業であり、提供者の規約や免責条項が日本法上の侵害責任を遮断するわけではない。第二に、特化 AI vs 汎用エージェントの住み分けが明確化した。

汎用 AI は特許 DB 連携・特許番号正確性・IPC 分類・Markush クレーム解析で特化 AI に劣り、
住み分けは少なくとも向こう 2-3 年は続く。海外汎用エージェントが「エンタープライズ全社共
通基盤」として導入される文脈で、知財業務の深部には国内特化 AI が残るというハイブリッド
構造が日本の知財実務の事実上の標準解となる。

「AI が働く時代」が始まったというよりも、AI に働かせる企業の責任設計が問われる時代が
始まった。これが、48 時間の同時発表が示した本当の地殻変動である。

参考文献

本稿の事実主張に関する出典は以下のとおり。本文中の上付き番号は本リストの番号に対応する。

- [1] OpenAI (2026年4月22日) 「Introducing workspace agents in ChatGPT」
<https://openai.com/index/introducing-workspace-agents-in-chatgpt/>
- [2] Google Cloud Blog (2026年4月22日) 「Welcome to Google Cloud Next '26」
<https://cloud.google.com/blog/topics/google-cloud-next/welcome-to-google-cloud-next26>
- [3] Microsoft Official Blog (2026年4月21日) 「Accelerating Frontier Transformation with Microsoft partners」
<https://blogs.microsoft.com/blog/2026/04/21/accelerating-frontier-transformation-with-microsoft-partners/>
- [4] 経済産業省 (2026年3月31日) 「AI事業者ガイドライン (第1.2版) の取りまとめ」
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/20260331_report.html
- [5] GIGAZINE (2025年11月19日) 「ついに「Gemini 3」が登場、無料で使えて GPT-5.1 や Grok 4.1 を凌駕」
https://gigazine.net/gsc_news/en/20251119-google-gemini-3/
- [6] 知乎 (2025年11月) 「25年11月底 AI 大模型动态跟踪——Gemini 3.0 Pro 新王降临」
<https://zhuanlan.zhihu.com/p/1974562766535799755>
- [7] SiliconANGLE (2026年4月22日) 「OpenAI subscribers get new ‘workspace agents’ to automate complex tasks across teams」
<https://siliconangle.com/2026/04/22/openai-subscribers-get-new-workspace-agents-automate-complex-tasks-across-teams/>
- [8] GIGAZINE (2026年4月23日) 「ChatGPT の AI エージェント「Workspace Agents」公開、メール返信やコード生成等のタスク自動化」
https://gigazine.net/gsc_news/en/20260423-openai-chatgpt-workspace-agents/
- [9] VentureBeat (2026年4月22日) 「OpenAI unveils Workspace Agents, a successor to custom GPTs for enterprises」
<https://venturebeat.com/orchestration/openai-unveils-workspace-agents-a-successor-to-custom-gpts-for-enterprises-that-can-plug-directly-into-slack-salesforce-and-more>
- [10] Google Cloud Blog 「The new Gemini Enterprise: one platform for agent development」
<https://cloud.google.com/blog/products/ai-machine-learning/the-new-gemini-enterprise-one-platform-for-agent-development>
- [11] Bloomberg (2026年4月22日) 「Google Releases New AI Agents to Challenge OpenAI and Anthropic」
<https://www.bloomberg.com/news/articles/2026-04-22/google-releases-new-ai-agents-to-challenge-openai-and-anthropic>
- [12] Microsoft News Asia (2026年4月22日) 「From AI experiments to Frontier Success: Microsoft Brings Agentic AI to Hong Kong Organizations」
<https://news.microsoft.com/source/asia/2026/04/22/from-ai-experiments-to-frontier-success-microsoft-brings-agentic-ai-to-hong-kong-organizations/>
- [13] Microsoft 365 Blog (2026年3月9日) 「Powering Frontier Transformation with Copilot and agents」
<https://www.microsoft.com/en-us/microsoft-365/blog/2026/03/09/powering-frontier-transformation-with->

[copilot-and-agents/](#)

- [14] Technology.org (2026年3月10日) 「Microsoft Puts Anthropic's Brain in a Corporate Suit and Calls It Copilot Cowork」 <https://www.technology.org/2026/03/10/microsoft-puts-anthropics-brain-in-a-corporate-suit-and-calls-it-copilot-cowork/>
- [15] Fortune (2026年3月9日) 「Microsoft debuts Copilot Cowork built with Anthropic's help and E7 software suite」 <https://fortune.com/2026/03/09/microsoft-copilot-cowork-ai-agents-anthropic-e7-m365-saas/>
- [16] Anthropic (2025年11月18日) 「Microsoft, NVIDIA and Anthropic announce new strategic partnerships」 <https://www.anthropic.com/news/microsoft-nvidia-anthropic-announce-strategic-partnerships>
- [17] Data Center Dynamics (2025年11月) 「Anthropic to purchase \$30bn in Microsoft Azure credits, Nvidia and Microsoft to invest in AI company」 <https://www.datacenterdynamics.com/en/news/anthropic-to-purchase-30bn-in-microsoft-azure-credits-nvidia-and-microsoft-to-invest-in-ai-company/>
- [18] OpenAI 「OpenAI Frontier | Enterprise platform for AI agents」 <https://openai.com/business/frontier/>
- [19] NxCode (2026年) 「OpenAI Frontier Guide: Enterprise AI Agent Platform for Building AI Coworkers」 <https://www.nxcode.io/resources/news/openai-frontier-enterprise-ai-agent-platform-guide-2026>
- [20] Wikipedia 「Google Antigravity」 https://en.wikipedia.org/wiki/Google_Antigravity
- [21] 9to5Google (2026年4月14日) 「Gemini app starts rolling out Personal Intelligence globally」 <https://9to5google.com/2026/04/14/gemini-personal-intelligence-global/>
- [22] Tech Insider (2026年) 「Apple's \$1B Gemini Deal: Google AI Replaces Siri」 <https://tech-insider.org/apple-google-gemini-siri-deal-1-billion-2026/>
- [23] MacRumors (2026年1月15日) 「Apple's Google Gemini Deal Could Be Worth \$5 Billion」 <https://www.macrumors.com/2026/01/15/apple-google-gemini-deal-5-billion/>
- [24] Wikipedia 「OpenAI Codex (AI agent)」 [https://en.wikipedia.org/wiki/OpenAI_Codex_\(AI_agent\)](https://en.wikipedia.org/wiki/OpenAI_Codex_(AI_agent))
- [25] Fortune (2025年12月2日) 「Sam Altman declares 'Code Red' as Google's Gemini surges」 <https://fortune.com/2025/12/02/sam-altman-declares-code-red-google-gemini-ceo-sundar-pichai/>
- [26] Business Chief 「Why Has Sam Altman Declared Code Red Over Google's Gemini 3?」 <https://businesschief.com/news/why-has-sam-altman-declared-code-red-over-googles-gemini-3>
- [27] Marketing Scoop (2026年) 「OpenAI Valuation in 2026: What the Latest Funding Round Means」 <https://www.marketingscoop.com/ai/openai-valuation-in-2026-what-the-latest-funding-round-means-and-why-the-number-keeps-moving/>
- [28] Wikipedia 「Model Context Protocol」 https://en.wikipedia.org/wiki/Model_Context_Protocol
- [29] Anthropic (2025年12月) 「Donating the Model Context Protocol and establishing the Agentic AI Foundation」 <https://www.anthropic.com/news/donating-the-model-context-protocol-and-establishing-of-the-agentic-ai-foundation>
- [30] Gupta Deepak 「Model Context Protocol (MCP) Guide: Enterprise Adoption」

<https://guptadeepak.com/the-complete-guide-to-model-context-protocol-mcp-enterprise-adoption-market-trends-and-implementation-strategies/>

- [31] DEV Community 「Model Context Protocol (MCP) Explained: The Open Standard Reshaping AI Development」 <https://dev.to/alexcloudstar/model-context-protocol-mcp-explained-the-open-standard-reshaping-ai-development-3aep>
- [32] byteiota 「Microsoft Agent Framework 1.0 Ships: MCP + A2A Converge」 <https://byteiota.com/microsoft-agent-framework-1-0-ships-mcp-a2a-converge/>
- [33] DEV Community 「Microsoft Agent Framework 1.0: Build AI Agents in .NET and Python」 https://dev.to/jangwook_kim_e31e7291ad98/microsoft-agent-framework-10-build-ai-agents-in-net-and-python-kka
- [34] Anchor 「OpenAI Operator Explained: How AI Agents Actually Control the Web」 <https://anchorbrowser.io/blog/how-openai-operator-works-with-ai-agents>
- [35] Bosio 「The Agent Arms Race: OpenAI, Anthropic, and Google Are Building What OpenClaw Proved Possible」 <https://bosio.digital/articles/agent-arms-race-openai-anthropic-google>
- [36] U.S. District Court S.D.N.Y. (2025 年 4 月 4 日) 「The New York Times Co. v. Microsoft Corp. et al., No. 1:23-cv-11195 — MTD Opinion」 <https://www.nysd.uscourts.gov/sites/default/files/2025-04/yf%2023cv11195%20OpenAI%20MTD%20opinion%20april%204%202025.pdf>
- [37] Justia 「NYT Co. v. Microsoft Corp. et al., 1:2023cv11195 - Document 514 (S.D.N.Y. 2025)」 <https://law.justia.com/cases/federal/district-courts/new-york/nysdce/1:2023cv11195/612697/514/>
- [38] Chat GPT Is Eating the World (2025 年 10 月 8 日) 「Status of all 51 copyright lawsuits v. AI: no more decisions on fair use in 2025」 <https://chatgptiseatingtheworld.com/2025/10/08/status-of-all-51-copyright-lawsuits-v-ai-oct-8-2025-no-more-decisions-on-fair-use-in-2025/>
- [39] Wiggin and Dana LLP 「Bartz v. Anthropic: First Court Decision on Fair Use Defense in LLM Training」 <https://www.wiggin.com/publication/bartz-v-anthropic-first-court-decision-on-fair-use-defense-in-llm-training/>
- [40] Wolters Kluwer Copyright Blog 「The Bartz v. Anthropic Settlement: Understanding America's Largest Copyright Settlement」 <https://legalblogs.wolterskluwer.com/copyright-blog/the-bartz-v-anthropic-settlement-understanding-americas-largest-copyright-settlement/>
- [41] The Authors Guild 「Bartz v. Anthropic Settlement: What Authors Need to Know」 <https://authorsguild.org/advocacy/artificial-intelligence/what-authors-need-to-know-about-the-anthropic-settlement/>
- [42] 長島・大野・常松法律事務所 「『AI と著作権に関する考え方について』（文化審議会著作権分科会法制度小委員会）のポイント」 <https://www.nagashima.com/publications/publication20240325-1/>
- [43] 有馬経営労務コンサルタント 「文化庁『AI と著作権に関する考え方』の要点解説」 <https://arm-csl.com/%E6%96%87%E5%8C%96%E5%BA%81%E3%80%8Eai%E3%81%A8%E8%91%97%E4%BD%9C%E6%A8%A9%E3%81%AB%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E8%80%83%E3%81%88%E6%9>

[6%B9%E3%80%8F%E3%81%AE%E8%A6%81%E7%82%B9%E8%A7%A3%E8%AA%AC%EF%BC%9A/](https://www.techcrunch.com/2025/06/04/reddit-sues-anthropic-for-allegedly-not-paying-for-training-data/)

- [44] TechCrunch (2025年6月4日) 「Reddit sues Anthropic for allegedly not paying for training data」
<https://techcrunch.com/2025/06/04/reddit-sues-anthropic-for-allegedly-not-paying-for-training-data/>
- [45] National Law Review 「Beyond Copyright: Reddit's Lawsuit against Anthropic」
<https://natlawreview.com/article/beyond-copyright-reddits-lawsuit-against-anthropic>
- [46] Fortune (2025年8月26日) 「Perplexity wants to play nice with publishers. They keep suing it anyway」
<https://fortune.com/2025/08/26/perplexity-lawsuits-publishers-ai-search-nikkei-news-corp/>
- [47] No Hacks 「Google-Agent: The Web's New Visitor Just Got an Identity」 <https://nohacks.co/blog/google-agent-user-agent>
- [48] AIPPI 「AI as an Inventor of Patents? IP High Court Judgment and the 2025 IP Strategic Program」
<https://www.aippi.org/news/ai-as-an-inventor-of-patents-ip-high-court-judgment-and-the-2025-ip-strategic-program/>
- [49] Federal Register (2025年11月28日) 「Revised Inventorship Guidance for AI-Assisted Inventions」
<https://www.federalregister.gov/documents/2025/11/28/2025-21457/revised-inventorship-guidance-for-ai-assisted-inventions>
- [50] National Law Review 「New Inventorship Guidance: AI-Assisted Inventions — AI can't be Inventor; AI can be Tool」 <https://natlawreview.com/article/new-inventorship-guidance-ai-assisted-inventions-ai-cant-be-inventor-ai-can-be-tool>
- [51] Tokkyo.Ai 「ChatGPT は特許出願や特許分析ができるか？対話型 AI について法的観点から考察」
<https://www.tokkyo.ai/tokkyo-wiki/chatgpt-patent-applicant/>
- [52] リーガルテック 「Copilot で特許調査はできる？～特許 AI エージェントと徹底比較～」
https://note.com/tokkyo_ai/n/nb89104993b84
- [53] リーガルテック 「Gemini は特許調査に使える？～特許 AI エージェントと徹底比較～」
https://note.com/tokkyo_ai/n/ncca381958445
- [54] J-Stage 「特許調査への生成系 AI の活用検討」 (情報の科学と技術)
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jkg/advpub/0/advpub_2024-025/_html/-char/ja
- [55] 島津製作所 (2026年) 「知財業務自動化 SaaS 提供の子会社 Genzo AI を設立 当社知的財産部の独自開発プラットフォームを4月から社外へ提供」
<https://www.shimadzu.co.jp/news/2026/acmnk57uqb3579ay.html>
- [56] IP Agent 「IP エージェント×島津製作所 新会社『Genzo AI』を共同で設立と製品説明会のご案内」
<https://ip-agent.com/archives/549>
- [57] Genzo AI 公式サイト 「次世代知財業務自動化プラットフォーム」 <https://www.genzo-ai.co.jp/>
- [58] 日本弁理士会 (2025年4月) 「弁理士業務 AI 利活用ガイドライン」 <https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-guideline.pdf>
- [59] 日本弁理士会 (2025年4月) 「AI 等を用いた業務支援サービスの提供と弁理士法第75条との関係について」 <https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-article75.pdf>

- [60] primeNumber 「AI 事業者ガイドライン v1.2 のトレーサビリティ要請」
<https://primenumber.com/blog/ai-guidelines-v1-2-traceability/>
- [61] 日本知的財産協会（2025 年 12 月 17 日）「日本弁護士連合会との意見交換会報告」
https://www.jjpa.or.jp/topics/251217_jfba_oe.html
- [62] 内閣府（2025 年 12 月 26 日）「生成 AI の適切な利活用等に向けた知的財産の保護及び透明性に関するプリンシプル・コード（仮称）（案）パブリックコメント」
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/ikenboshu_20251226.html
- [63] Gartner（2025 年 10 月 7 日）「Press Release: Gartner Forecasts Agentic AI Supply Will Exceed Demand」
<https://www.gartner.com/en/newsroom/press-releases/2025-10-07>